

木育かわら版

MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Vol.
9

Contents

Page1	木づかい県民会議木育ネットワーク部会講演会
Page2	木育ネットワーク部会勉強会
Page3	高校生を対象とした木育事業
Page4	幼稚園の取り組み

平成 30 年度 木づかい県民会議木育ネットワーク部会講演会

森づくりと人づくり共通価値を創造する

日 時：平成 31 年 2 月 10 日(日) 13:00 ~ 16:30

場 所：高千穂町自然休養村管理センター

講 師：岐阜県立森林文化アカデミー教授 松井 勲尚氏

参加者：27 名



松井 勲尚（まつい ときなり）

岐阜県立森林文化アカデミー教授。木育実践研究者。一陽会彫刻部委員。「文化と子どもを真ん中に置いたまちづくり」を目指し、「MOTTAINAI 工房」「木育カフェ」を考案しスタート。「ぎふ木育 30 年ビジョン」策定に関わり、現在「第 3 期ぎふ木育指導員養成講座（全 7 回）」監修。地域に根ざした独自の木育プログラム開発多数。全国の幼保・大学などの木育研修などを支援。「幼児の心とからだを育むはじめての木育」編著（黎明書房）

西臼杵郡で木材や子どもに関わっている方たちを対象に、松井先生の講演会を行いました。

➤ 木と人の命を大切にできない日本！

5つの数字

・67%・35%・3万人・90%・91.3%

国土における森林面積が 67%と、世界の中でもトップ 3 に入る我が国日本。宮崎県においては 76%の森林率に対し、人工林の割合が 59%である。人工林は、使う為に植えた木の山である。しかしながら、木材の自給率は 35%と低く 65%が外材となっている。これは、最後まで木の面倒を見ていない、ということを表している。このような日本の中で「生きる力」が育むことができるのか。。。。

そのことを裏付けるデータが出ている。年間の自殺者は 30,000 人と出ており、これは医者が認定した数であり、実際には 150,000 人とも言われている。その中でも 20 代の死因のトップが自殺である。このことから、社会に希望を持ってない、ということが見てとれる。また、小学校高学年の 90%がいじめを経験したことがある、と数値がでていいる。91.3%。これは都市部に住む人口の割合である。東京に限ったことではなく、地域においても、地域の都市部を指している。先進国の中でも異常な割合となっている。これは、何を価値観としているのかを表している。

➤ 森を舞台にした木育+暮らしを舞台とした木育

森を舞台にした木育＝「緑の木育」。森の中で（森林空間を含めて）育まれる子どもたちのチカラ、生きるチカラ。暮らしを舞台とした木育＝「茶色の木育」。木のおもちゃ、木の家、木の家具で育ちながら森の問題を解決していくこと。人の選択や人の心の問題は全てここ（木育）にあります。

岐阜県でいう「ぎふ木育」とは、森を木から学ぶ全ての学びということで、1.長期的に育むこと。2.木育は心の教育であること。3.つながり。を大切にしています。

➤ 木でつくり、木をつかう木育のチカラ

①木と樹のつながりを感じるチカラ

②モノを大切にするチカラ

③工夫するチカラ

④根気ややる気

⑤協力する心・気づかう心

木で作るといことが、今、とても大事になっています。木は生き物で節が出たり動いたり、思い通りにならない。木の命、木の声を聴きながら作ることで、木に寄り添う気持ちが生まれる。また、作ることを通して色んな視点が生まれる。途中であきらめなくなったり、投げ出さなくなった時、誰かがアドバイスをくれ助けてくれる。乗り越え作品ができることが人生疑似体験になっている。

木工教室を開催するときは、作って終わり、では「木育」にはならない。そこに“大人の願い”が入ることが大切である。大人の願いとしては、子どもの意思のチカラ、将来自分らしく生きるチカラを育むためにやっている。これが重要である。

➤ 戦争のない日本になってほしい

10 年後、どんな社会にしたい？この問いに子どもたちが出した答えが「戦争のない日本になってほしい」。それは、人が人の命を大事にする世の中。日本は人だけでなく他の命も大切にしたい。それをもう一度取り戻すのに、得意なことを通して「木育」に取り組んで欲しいと思います。



MOKUIKU

木育ネットワーク部会 勉強会

木育カフェ

日 時：平成 31 年 2 月 10 日(日) 13:00 ～ 17:00

場 所：高千穂町自然休養村管理センター

講 師：岐阜県立森林文化アカデミー 教授 松井 勲尚 氏

参加者：27 名（西白杵 3 町農林課、福祉課、林研グループ、保育士など）

木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

松井先生の講演会の後は、『木育カフェ』を実施しました。この、『木育カフェ』は少数でグループになり、テーマに沿って話し合うのですが、その時に、手元ではモノづくりを行っています。今回作ったのは“森のかけらのお守り”。西白杵郡で育った杉を材料に、丸太を割ったかけらを紙やすりで磨き仕上げていきました。作業しながら話し合うので、気軽に言いたいことが言える雰囲気となるのが魅力です。杉はリラックス効果があることから、終始、和やかな雰囲気で進んでいました。

テーマは3つ

- ①「子どもの頃の遊び」
- ②「住んでいる場所の自慢（人、モノ、コト、祭りなど）」
- ③「私にできること（木育）そのうえでの課題」



①の子どもの頃の遊び、では、自分でおもちゃを作っていた方、室内ゲームなどで遊んでいた方、それぞれ子ども時代を思い出しながら語り合っていました。②の住んでいる場所の自慢では、西白杵らしい、いろいろな自慢がありました。日之影町の方は、「景色」。雲海橋を見下ろし、雲海を抜けて出勤しています、という方や、他の地域の方は、「大家族」。三世同居は普通のこと、子どもも 5、6 人いる家庭が多く、地域のつながりが強く、助かっています、という自慢が聞かれました。③の私にできること、では、未来を考えた意見として、「今日のつながりを濃くして、日本の古き良き文化をつなげていきたい」や自営の方は「会社を菌車として、この地域が自立できる環境を作りたい」。保育士の方は「子どもたちに、木を使った遊びを伝えていきたい。（岐阜県の取り組みを聞いて）保育園で、仕組みづくりができればいいなと思う」と、さまざまな立場での「木育」を通じた取り組みの意気込みが感じられました。

木育ネットワーク部会 勉強会&木育カフェ

日 時：平成 31 年 2 月 9 日(土) 10:00 ～ 16:00

場 所：県庁会議室、宮崎県総合博物館

講 師：岐阜県立森林文化アカデミー 教授 松井 勲尚 氏

参加者：11 名（みやぎきスギ活用推進室ほか）

宮崎県は『みやぎき木づかい県民会議』を設置し、官民一体となり、木材の地産地消運動を行っています。また、毎年木育活動を推進するための人材として、「木育サポーター養成講座」を行っています。しかしながら、それぞれが個々に活動しており、県として「木育」がどのような立ち位置であるのかが明確になっていません。そこで、松井先生を講師に、宮崎県職員を中心に、宮崎県における「木育活動」について、話し合いました。

課題

- ・人材育成のためのカリキュラムづくり
- ・宮崎県における「木育」の体系化
- ・木育に取り組む団体と木育サポーターの接続



木材の木目やにおいで、何の木かを確認しました。



木育カフェ。話しが弾みます。



博物館学芸の黒木さんによる博物館概要説明

午前中は県庁会議室で、それぞれの立場から「木育」について語り合い、いろいろな課題を共有することができました。

午後は、場所を宮崎県総合博物館に移し、博物館の職員の方も加わっていただき、木育カフェ（テーマは3つ。①子どもの頃の遊び、②いちおしの木の文化、③本年度で誇れる仕事）を実施しました。②のいちおしの木の文化は、博物館の中、外を巡り、これは、と思うものをカメラで写し、見せ合いました。

その後は、博物館の学芸の黒木さんに、博物館の概要を説明していただきました。博物館には宮崎県の自然史、民俗史、歴史人物などが展示されています。民俗展示室の木の道具などは、木と人間の営みとの関係が分かる、木育の視点からも大事な資料です。博物館と暮らしが密着である（あった）ことを改めて感じたお話でした。

まとめ

産業と教育を分けない、森づくりと人づくりを分けない。

人が森をつくっているということを念頭に、ここから、第2段階の取り組みを行うのが大事である。

宮崎県民である、ということを忘れず、職務を全うしていく。

高校生を対象とした木育事業

高千穂高校卒業モリプロ

日 時：平成 31 年 2 月 22 日(金)

場 所：宮崎県立高千穂高校

講 師：YAMASHI (西臼杵の若手林業家グループ)

佐藤 健誠氏、抜屋 匠氏、高山 豊仁氏

参加者：137 名 (普通科、生産流通科、経営情報科の 3 年生)



仲間と協力して丸太を割り、かけらにします。



かけらを自分自身だと思い、今までの高校生活への思いや、お世話になった方々への感謝、これからの夢への思いを込めながら磨きました。



卒業記念製作に先立ち、YAMASHI の 3 名が使用する木について話しました。

同じように育ったイキモノ同士

使用する木も卒業生も、18 歳。卒業生の皆さんは、家族や周りの方々のおかげで成長しました。木も林業家が手で植え、草刈りをして大切に育てたものです。丸太には“芯”がありますが、この芯が通っているから木はまっすぐに育ちます。今後、いろんな人と出会い、新しい環境に飛び込んでいく皆さんに自分の芯を大切にしたい。また、年輪には幅があります。日光も栄養も少ない時はあまり成長せず、幅が狭くなります。これからの人生、良い時もあれば悪い時もあると思います。つらいこと、悲しいことがあると思います。しかし、木は年輪の幅が狭いものほど、堅くて良い木になります。頑張った人、苦勞を重ねた人ほど立派な大人になるんだ、ということを伝え、この丸太を割り、できたかけらを紙やすりで磨いてお守りを作りました。

大人からの想い



当初、チェンソーで切って丸太を準備する予定でしたが、心がこもらない、と手ノコで想いを込め切りました。一人の想いが他の林業家にも伝わり、皆が手ノコで切り、作業後はビデオメッセージを残し、当日の製作終了後に流しました。

● 生徒の感想 ●

「今回の活動で、私たちはたくさんの人に支えられてここまで来られたこと、周りには頼れる人がたくさんいることを改めて感じる事ができました。」「私も一本の木のように、芯のある大人になるために頑張ります」「高千穂で育ったことを誇りに、胸をはって前を向いてがんばります」



宮崎県立都城工業高校出前授業

日 時：平成 30 年 12 月 10 日(月) 13:20 ~ 14:10

場 所：宮崎県立都城工業高校インテリア科 デザイン室

講 師：都城森林組合 主任 後藤 太善氏、出水木材(株) 専務取締役 出水 慎一氏、川口木材(株) 取締役 廣池 直美氏、久保産業(株) 代表取締役 久保 光一郎氏

参加者：38 名 (インテリア科 2 年生)



都城工業高校インテリア科は、7 月末に実施された「みやぎき林業大学校」オープンキャンパスへの参加や 10 月に開催された都城地区木青会主催の「木工女子工作コンペ」での参加及び加工機材の協力などを契機として高校側から生徒達の森林・林業、木材産業への理解の醸成について相談があったことから、植林・保育、立木の伐採、製材品加工、木材流通などサプライチェーンの流れが理解できるよう都城地区木青会の会員企業 4 社の協力を得て出前授業を実施しました。授業を受けた生徒が地元ケーブルテレビの取材を受け、後日ニュースでも放映されました。



『植林・保育を担う森林組合等の仕事』
後藤 太善氏



『立木の伐採を担う素材生産業の仕事』
出水 慎一氏



『原木から製材品を造る木材製材業の仕事』
廣池 直美氏



『製材品等を工務店向けに流通させる木材流通業の仕事』
久保 光一郎氏

幼稚園の取り組み

➤ 学校法人 坂本学園 幼保連携型認定こども園 生目幼稚園

日 時：平成 31 年 3 月 8 日（金）10:00 ～ 12:00
場 所：幼保連携型認定こども園 いきめようちえん
参加数：年長児 53 名

卒園を迎える年長さんを対象に、「森のかけらのお守りづくり」を行いました。小学校にあがったら何を頑張るか、想いを込めて磨いてもらいました。



木についてのお話し



木のおいを嗅いで、匂いの違いを確認



木によって皮が違うのも興味津々



この葉っぱはチクチクするなあ～



自分のお守り、すべすべになるまで磨きます！



仕上げはクルミの油。しっかり塗り付けます☆



西白杵郡の山にある木の枝、ひとつひとつを子どもたちに確認してもらいました。クヌギ、アカシデ、山桜、ケヤキ、杉、ヒノキ、栗、カゴノキ、イチヨウなどがありました（＾＾）



一生懸命磨いたお守りは、森の宝物であり、自分たちの宝物にもなったようです。みんな誇らしげに見せてくれました（*^^*）

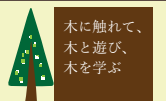
木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやぎき木づかい県民会議を平成 25 年 2 月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

お問い合わせ

みやぎき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局
宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやぎきスギ活用推進室
〒880-0802 宮崎市別府町 3 番 1 号 宮崎日赤会館 2F TEL：0985（27）7682 / FAX：0985（25）2398
※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ